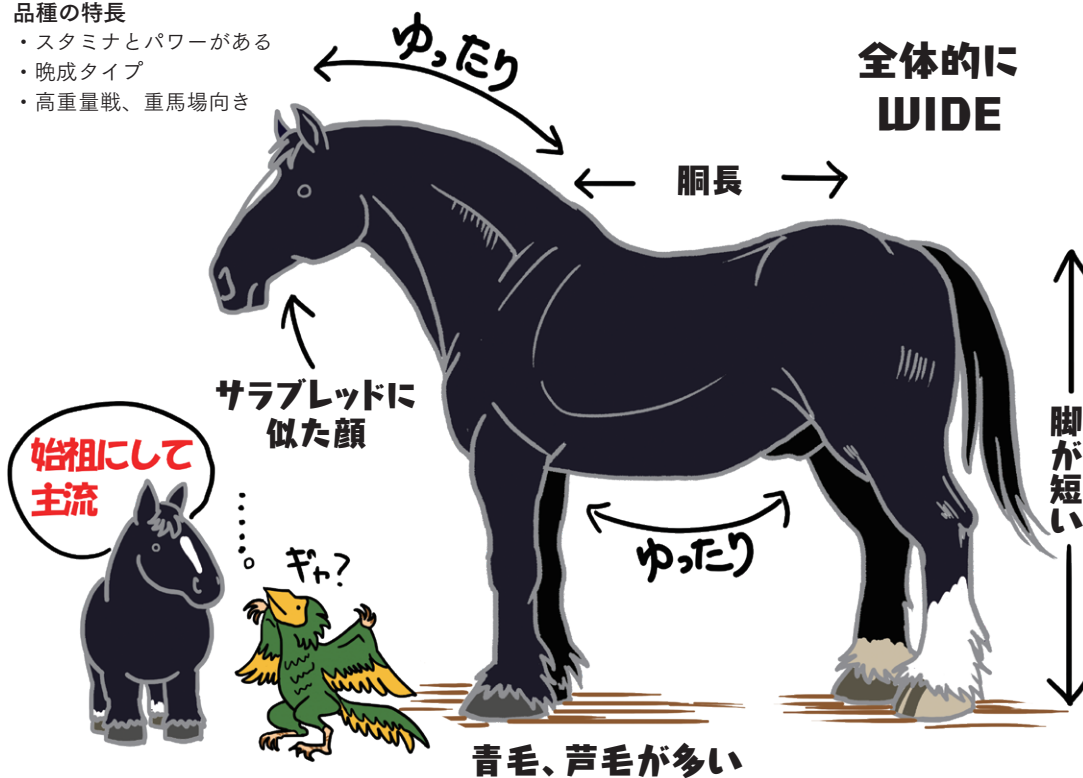


パワーとスタミナを誇る
ばん馬の始祖

ペルシュロン種

品種の特長

- ・スタミナとパワーがある
- ・晩成タイプ
- ・高重量戦、重馬場向き



ペルシュロン種の代表的な種雄馬



二世ロッシーニ

1966年生 青毛 北海道 音更町産
血統登録馬数:527頭 種雄馬登録数:62頭

ばんえい界のレジェンド種雄馬です。雄大な馬格で、生産者が好んだ青毛だったため、供用初年度から人気を博して数多くの産駒を残しました。

晩成と言われるペルシュロン種にしては珍しく、産駒は早熟で2歳リーディングを3回獲得し、イレネー記念馬を5頭輩出しています。また成長力にも優れ、古馬になって大成する馬も数多く出しました。代表産駒の筆頭、キンタローはばんえい記念を3勝し、初の獲得賞金1億円馬となりました。二世ロッシーニは万能の種雄馬で、産駒は仕上がりが早く成長力もあり、パワーとスピードを兼ね備えていました。

今に伝わる二世ロッシーニの血



1億円馬と二世ロッシーニ

獲得賞金1億円馬	父馬名
キンタロー	二世ロッシーニ
タカラフジ	タカラコマ
ヒカルテンリュウ	マツノコトブキ
アサギリ	リウリキ
マルゼンパージ	マルゼンストロングホース
フクイチ	マツノコトブキ
スーパーペガサス	ヒカルテンリュウ

ばんえい競馬では獲得賞金が1億円を超えた馬を「1億円馬」と称えます。現在7頭いますが、このうち、4頭が二世ロッシーニ系です。この父系は高重量戦に適性があるようで、高額賞金レースであるばんえい記念や帯広記念と相性が良いのです。2019年のばんえい記念ではウンカイ産駒が1~4着を独占しています。

二世ロッシーニ産駒の数多い種雄馬の中で、最も成功した馬がマツノコトブキです。全兄（同じ父母の兄）は名競走馬のハヤホマレで、馬格に優れたマツノコトブキは兄を超える活躍が期待されていました。しかし蹄を患いデビューすることなく種雄馬となります。競走馬にはなれませんでした。種雄馬として大成し父を上回る成績を残しました。近年のばんえい競馬ファンにはウンカイの父と言うと、「ああ！」とお分かりいただけるかと思います。

二世ロッシーニ～マツノコトブキ～ウンカイの系譜は、ばんえい競馬史上最強の父系です。サラブレッド競走馬におけるHalo～サンデーサイレンス(USA)～ディーブインパクトのような偉大な父系と言えます。

ウンカイは、1997年の3歳世代重賞の3冠馬です。競走馬として素晴らしい名馬ですが、それ以上に種雄馬としても大成功しました。オレノココロ、センゴクエース、コウシュハウンカイ、フジダイビクトリー…。産駒の活躍は記憶に新しいところです。そしてコウシュハウンカイ、フジダイビクトリーは種雄馬として期待され、多くの産駒に恵まれています。二世ロッシーニの父系は今後も発展していくでしょう。